

■部会名：暮らし・定住部会

■部会長（有識者委員）：千里 政文 委員

■市民委員：大作 美佳 委員、神 千加 委員、諏訪部 容子 委員、
富沢 裕司 委員、松本 教子 委員

■概要

1 全体の進め方について

千里部会長：マトリックス上の意見を内容ごとに大きくくりで整理してみる。まずは、一番多い「情報」に関する意見について、次に「子育て」関係について、そして「教育」関係、最後に「空き家」関係について、各委員に配布されたマトリックス表に色の違うペンでくくってみる。

出された意見が実際に実施できるかどうか、意見を個別にみていく。この部会では地下鉄の延伸などそれほど無理難題なものはないと思う。

江別市に限ったことではないが、情報のPRが上手くいっていない。情報発信をどこからどうやって行うかが重要。また、子育ての部分で大きなものとしては、ひとり親や共稼ぎ世帯の子育てをどうするか。関連して保育施設、教育施設、病児保育をどうするかという問題がある。言葉としてはバラバラに見えるが、働きながらの子育ても一括りにできる。その他に安全に関する部分も絡んでくる。子育ての分類の中で、実際に市でやるべきことかどうかもご検討いただきたい。

○ お金がかからないのは嬉しいが、給食費をすぐに無料化するなど、何でも無料化にしたり、値下げしたりするというのは難しいことであると思う。

○ 延長保育で預けるにしても、時給700円ぐらいの賃金で、働いた分のお金とその延長分のお金が割に合わないと働かなくなる。市としてやることか、国がやることか、どうやって共稼ぎの親を支援できるかを考えるべき。これまで各部会でいろいろな意見が出てきたが、実際に何でもやると莫大な金額になる。市は予算がないと言わざるを得ないと思うが、予算は後になってついてくると思うので、後は市のやる気の問題ではないか。

千里部会長：親としてよく分かる部分ではあるが、全部の実施は難しい。難しいからやらないということにはならないと思うし、この部会として子育てに関して大事なことは、市へ意見として出していく必要がある。ここの部会ではそれほど極端な意見はほとんどないが、民間でやるべきことか、行政がやるべきことかを考える必要がある。働きながら子育てしたいという意見が多かった背景には、子育てしたい人がいるのか、それとも子育てしたくてもできない人がいるのか、また、子育てできない理由は何なのかを考える必要がある。学童保育も今はだいぶ良くなってきている。保育の時間帯については、預かりの時間を延長す

ると、学童保育の先生にも子どもがいるので、先生自身の子どもを預ける時間も遅くなるということが起きて、そのサポートが必要となる。まずは、子育て支援の中で大きくりに分類したものにタイトルを付けていきたい。

また、大学生と市との連携について、お祭りや商店街の活性化などいろいろなところで関わっているが、上手くPRされていない部分があると思う。PRについては、大学生だけの話ではなく、小中高校生も含めたいろいろな取り組みにも関連するし、お金をかけなくてもできる部分であると思う。

その他、教育については「優秀な人材の確保」という意見があるが、どうやってできるのか、どこがやるのか。例えば、「進学校が札幌に劣るため、札幌に行ってしまうと江別に戻らない」という意見があるが、中学校が頑張ると良いのではないかと思うが、難しい内容である。

マトリックスを整理する上での分け方として、とりあえず「子育て」と「情報関係」、「教育関係」、それと「空き地、定住の問題」となると思うが、その他にあれば伺いたい。

老朽化した学校の耐震化については、実際に計画としてある程度進んでおり、情報発信についてどうするかということになる。

2 これまでの市民会議及び各界各層との意見交換における新規意見の整理

【作業中の意見】

千里部会長：まず、今回追加となった意見について、分類したい。意見の中には、あった方が良くても、現実的には無理というものもある。できるか、できないかも考慮して分類したい。

- 「働きながら子どもを産んで育てられる街」という意見が、そのまま子育て部分のタイトルになるのではないか。
- おたふくなど予防接種を受けてもかかってしまうなら、水ぼうそうの方を無料にしてほしい。
- 「予防接種の広報」は、必要がある時にしかみんな真剣に見ないので、定期的に知らせると良いのではないか。また、自分に関心のないものは、どんなにPRしても見ないと思う。
- ここにある新規カードは、無料化などの内容であるが、そうする方が子育てに優しいまちというイメージがつかれるから、何がなんでもやらなければならないことなのか。それとも、そうなったら良いという程度のものなのか。
- 昔は親も子も苦労して子育てを行なってきたが、今は何でも扶助してくれというが、それはどうなのかと思う。行政が悪いとか、何が悪いとかと言っているが、自分の子どもを親が自分の力で育てあげるとするのが、親の基本的な考え方ではないか。
- 「保育園児童の高齢者施設の訪問による世代間交流」について、1～2歳の子は大変だと思うので、大きい子だけを連れて行くということで何とかできると思うが、受け入れ

てくれる施設の方がどう考えるかによると思う。

○ 学童では、高齢者施設である程度車椅子を押したりすることはできる。

○ 保育園と幼稚園の所管を一緒にすることは、市役所の中だけでできるものなのか。

〔⇒ 事務局：ゆくゆくはやらざるを得ないことだと思う。〕

千里部会長：認定こども園にすると国では言っていたが、幼稚園教諭も保育士も両方資格が必要となり、4年制大学で保育士の資格をどうするかが問題となっていた。かつて、教育の部分は幼稚園、保育の部分は保育園であったが、今は親も働きに出ないと生計が厳しいので、子どもを預けながらの仕事となると保育園となり、幼稚園に定員割れが起こり保育に手を出さざるを得ないため認定保育園へという流れになってきている。

○ 「新総合計画において幼児教育を視野に入れた施策づくりが必要」とはどういうことなのか。

〔⇒ 事務局：文部科学省では指針をつくっているが、江別では幼稚園がすべて民間であるため、江別市では幼稚園の指針をつくっていない。〕

○ 「子育て支援センターをもっと利用しやすいように土日の開館日を増やしたり、平日の開館時間を延長する」ことについてだが、土、日の昼間に空いている分については良いが、平日の開館時間が延長された時に本当に行くだろうか。

○ どうやって江別市を売り込むかという市の情報のPR、シティ・プロモートする部署をつくって真剣に考えていただきたい。そこでいろいろなことをやっている各団体を巻き込むことは良いと思う。

○ 「出産祝い金（一時金）の創設」については、健康保険ですすでにあると思うが。

〔⇒ 事務局：さらに支給してほしいというご意見。〕

○ 市立病院で出産すれば、健康保険の給付でほとんどお金がかからないはずであり、それで良しとしなければならないのではないか。

○ 市立病院の医師について、江別に限ったことではないが、優秀な医師というのは、なかなか集まらないのではないか。優秀な医師は、開業してしまう。

○ 「学校の空き教室や体育館を学校で利用していない時間帯に就学前児童に開放」については、1人ひとりに事故が起きても学校を訴えないで、親の自己責任で利用してくださいということになると思う。

千里部会長：学校の空いている時間となると、中学校では部活をやっているので、実施できるかどうか難しいのではないか。なぜこういう話が出てきたかということになる。

○ 屋内施設があって冬でも遊べる札幌の川下公園のような施設をイメージしているのだと思う。

3 戦略テーマの整理

○ 『子どもを産んで育てられる街』という部分と、『学校の教育特区』に関する部分、

そして、いかに江別という街をいろんな場面で売ってPRしていくかという『シティ・プロモート』系の話とそれ以外の部分にまとめていかなければならないと思う。

千里部会長：情報発信については、キーワードのように他の部会でも出ている。暮らし・定住部会にふさわしい情報発信の名前にしたら良いと思う。

○ 市がどんどん周りを巻き込んで、江別のイメージアップであったり、情報発信であったりということをやってもらいたい。

千里部会長：「情報」の部分については、とりあえず『暮らしの情報発信』としておきたい。

○ ただ情報発信するだけではなくて、どうしたら江別を良く思ってもらえるか、イメージを良くする方法を市で常に考えていただきたい。

千里部会長：情報発信については、拠点というものが大事であると思う。拠点というのは建物ということがあるし、どこが発信するかということもある。ハードとソフトの両方の面がある。また、タイムリーに情報を発信できると良い。

○ 今年のYOSAKOIソーラン祭りの「江別まっことええ」の鳴子の準大賞受賞は、江別のPRに良い機会だと思う。

千里部会長：『空き家・定住』の部分も気になる場所である。

○ 大麻は、土地を買ったら何年以内に家建てなければならないところだったので、昔は空き家がほとんどないまちだった。昔から住んでいる人は、余計に空き家があると気になるのではないか。世帯数について、乱暴に言ってしまうと、昭和56、57年ぐらいに世帯数より住宅数の方が超えている。空き家がないということがおかしいと思う。ただ、それが問題という意味ではなくて、ことさら騒ぎ過ぎている部分も少しあるのではないか。もちろん、雪のことや草のことで問題になっているのも分かるし、対策をしなくて良いということにはならないと思う。

○ 空き家が、そのままの状態になっている。大麻だけでなく、江別駅前の通りも同じ状況になっている。

○ 日本全体が、同じような状況になっている。

○ 高齢者の方も若い人に住み替えてもらいたいと言っているが、いざ自分が引っ越すかというところ簡単には引っ越さないのではないか。

千里部会長：「医療」の部分についてももう少し考えてみていただきたい。無料化の話などが出ている。

○ 「往診診療の実施」について、豊幌では小児科がないので実施できたら良いのではないか。

千里部会長：「子どもたちの安全・安心」の部分については、意見としては少なく、他の部会でもやっていることなので『暮らしの安全』というぐらいにしておきたい。

その他、「婚活イベントを開催」という意見なのであるが、いろいろやっているまちはあるが、これをどこでやるべきなのか。

○ 野幌で1度まちコンをやったが、継続していくことが大切ではないか。

- 江別では特徴のある教育をやっているというイメージがあると、住んでみようかなということもあるのではないか。
- 岩見沢では英語に関して特別な取り組みを行なっている。教育委員会次第だが、英語の教育費がかからなくて良いのではないか。
- 学校によって違いが大きいと思う。宿題が多い学校だと、塾に行く余裕がない。
- 恵庭では、学校に司書が配置されていてとても良いという話がある。
- 江別の小中学校のホームページが更新されていない。熱心な先生がいなくなると、更新しなくなってしまう。

千里部会長：情報発信をいろいろなところでやっているが、継続して行うことが大切。

子どものことに関しては、短期のものがほとんどであり、PRについては、継続していくものだと思う。

教育特区については、短期だけでできるものではないと思う。短期から長期にかけて行うもので、教育の連携は、ハードに入れてはあるが、ソフトとハードの間ぐらいにしても良いと思う。

空き家・定住の部分については、暮らし・定住部会の名前と重なると分かりにくくなると思う。

- 教育特区は、小中一貫が良いのか、それとも例えば、芸術とかスポーツなどが良いのか。

⇒ 事務局：これまでの教育特区では、公立で学校をつくって、民間企業の力を借りて民間の株式会社に運営してもらおうという手法があった。

- 熱心な先生だと小学校で YOSAKOI とか 30 人 31 脚などで頑張っていたが、その先生がいなくなると途端にしぼんでしまう。それぞれの学校でずっと続けられる特色がもっとあったら良いと思う。生徒を集められるようなものがあると良いのではないか。

千里部会長：特区という名前を付けてしまうと、特区だけで終わってしまうので、特区も入るようなもっと幅広い特色のある教育についてテーマを設定してはどうか。

とりあえず戦略テーマのタイトルを付けなければならないが、札幌の学園都市と比較すると、江別には大学がたくさん集まっていて、江別の方が学園都市のような気がする。とりあえず、仮に『学園都市』としておいて、他に良いネーミングがあれば次回に話し合いたい。

また、医療関係もまとめられるかもしれない。ただ、実際にやっていることなのかどうかの検証は必要。

『定住・空き家対策』の部分については、暮らし・定住部会と名前が重なってしまうため検討が必要。

- 住み替えのために、働きながら子育てする人に江別にどんどん来てほしい。